

発掘成果をふりかえって 2000

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

20世紀最後の年となった昨年も、数多くの発見や興味深い成果を得ることができました。

植物園北遺跡で出土した碗は、おしゃれなコーヒークップとして使ってみたくなるほどです。

平安京右京三条二坊十六町では

「^{さいくう}齋宮」の邸宅が見つかり、京内で初めて園池の全貌を調査することができました。池の泉から出土した表情の豊かな人形には、思わず吹き出しそうになります。

それでは、どのような調査があったのか、見てみましょう。



調査地点



1 植物園北遺跡 北北上賀茂土門町

古墳時代の竪穴住居跡が地表下20～30cmで見つかった。須恵器の把手き碗が出土したが、住居跡からの出土例はまれである。



2 平安京右京三条一坊六町 中京区西ノ京小倉町ほか

平安時代前期の建物跡が見つかった。当町は、9世紀後半には右大臣藤原良相の西三条第（百花亭）推定地の一つとされている。



3 平安京右京三条二坊十六町 中京区西ノ京東中合町

市立西京商業高等学校のグラウンドから平安時代中期の邸宅跡と園池を発見した。写真左の泉から池に水を引き入れていた。



4 平安京右京三条二坊十六町・出土遺物 中京区西ノ京東中合町

写真3の園池からは「齋宮」と書かれた土器や人形が見つかった。廊にはマツ・カエデ・アヤマなどが植えられていたようだ。



5 平安京右京三条一坊十町・出土遺物 中京区西ノ京船塚町ほか
宮外の三条坊門小路の北側溝から、平安宮内の役所の一つである
『内舎人所』と墨書した、平安時代中期の緑釉陶器碗が出土した。



6 平安京左京四条四坊十二町 下京区四条通麩屋町西入る立売東町
室町時代の町屋が通り而して並び、奥に半地下式の倉を設ける。
倉の一つには陶器の破片が敷き詰められていた。



7 方広寺大仏殿跡 東山区正面通大和大路東入る茶屋町
大仏殿の中央には、一辺約15mの八角形の台座が一段高く設け
られ、側面には自然石が並べられていた。



8 方広寺大仏殿跡 東山区正面通大和大路東入る茶屋町
大仏殿の床は、一辺60cmの正方形の花崗岩が斜格子状に敷かれ
ていた。建物規模は南北約90m・東西約55mと推定できる。



9 京都御所東方公家屋敷群跡 上京区京都御苑
柳原家の屋敷跡の南東隅で、江戸時代前期の井戸が見つかった。
半地下式で、三方を石垣で囲み、階段を設けている。



10 京都御所東方公家屋敷群跡・出土遺物 上京区京都御苑
敷地中央部で地鎮具ちぢんぐの寶瓶が見つかった。高さ14.3cmの黄銅製で、
真珠・水晶・象牙・米・胡麻などの五穀五宝が納められていた。